※該当する評価項目の『□』にチェック入れる。

別表２　採点表（土木設計業務）　①〔担当員用〕

評価項目			評価の視点	配点	得点率 優 1.0	標準 0.8	0.6	0.4	劣 0.2	得点	評価細目
プロセス評価	専門技術力	提案力、改善力〔加点評価〕	業務着手段階における業務特性等の考慮	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」						□ ・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた。 □ ・当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査･解析･設計等の手法･技術に関する提案がなされた。注）
			業務遂行段階における提案	40	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」						□ ・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 □ ・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レベルに基づく提案がなされた。注）
			業務遂行上必要となる課題の提案	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」						□ ・当該業務で不足する課題が抽出された。 □ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。
			業務内容等改善の提案	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」						□ ・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。 □ ・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。
			小　計	100	①						
		業務執行技術力	目的と内容の理解	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・業務計画書に必要事項が記載されていた。 □ ・当該業務の目的、内容が理解されていた。 □ ・業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。 □ ・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が理解されていた。
			必要情報の把握	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 □ ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解･活用されていた。 □ ・業務遂行段階で、新たなに必要とされた情報収集の努力がなされていた。 □ ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された。
			検討項目、検討手法	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □ ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 □ ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □ ・提案された検討手法は、従来技術を応用･統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注）
			打ち合わせ資料の内容【減点評価】	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「1.0」 〃=1⇒「0.6」、〃=2⇒「0.2」						□ ・打ち合わせ資料に、業務の各段階で必要とされる内容が盛り込まれていなかった。 □ ・打ち合わせ資料に大きなミスがあった。
			十分な技術力	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・業務に必要な技術基準、マニュアル、業務仕様書等が十分に理解されていた。 □ ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 □ ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。 □ ・新たな、あるいは高度な調査･解析･設計等の手法･技術に十分対応できる能力を有していた。注）
			小　計	100	①						

注）考査基準（一般）「採点上の補足」を参照のこと。

評価項目				評価の視点	配点	得点率 優 1.0 / 標準 0.8 / 0.6 / 劣 0.4 / 0.2	得点	評価細目
プロセス評価	専門技術力	施工時への配慮〔設計時評価〕 （イ、ロのいずれかを選択する。該当するイ、ロのいずれかの『□』を『■』に置き換える。）	□イ.『概略設計、予備設計』の場合	施工に関する一般的な知識	60	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」 －	－	□・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 □・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。 □・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有していた。 □・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。
				施工条件の把握	40	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」 －	－	□・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。 □・当該地域の環境特性を把握していた。 □・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。 □・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。
				小　計	100	①	－	
			■ロ.『詳細設計』の場合	施工に関する一般的な知識	40	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 □・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。 □・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有していた。 □・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。
				施工条件の把握	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。 □・当該地域の環境特性を把握していた。 □・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。 □・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。
				施工計画（施工方法、仮設備計画）	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□・必要事項を記載した施工計画が提案された。 □・施工条件を的確に踏まえた施工方法、仮設備計画が提案された。 □・工事が周辺環境に及ぼす影響を考慮した上で、施工方法、仮設備計画が提案された。 □・当該工事箇所における施工上の留意事項が、重要度別かつ施工段階毎に適切に整理する提案がなされた。
				小　計	100	①		
		コスト把握能力 （設計業務を対象に評定する。）		コスト把握能力	100	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□・工事費に関するコスト把握能力を有していた。 □・現地条件などの固有条件がコストに及ぼす影響を理解していた。 □・コスト縮減に係わる提案があった。 □・ライフサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコストを念頭においたコスト縮減に係わる提案があった。
				小　計	100	①		

評価項目				評価の視点	配点	得点率 優 1.0	標準 0.8	0.6	0.4	劣 0.2	得点	評価細目
プロセス評価	管理技術力	工程管理能力【減点評価】		実施手順、工程計画	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「1.0」 〃=1⇒「0.6」、〃=2⇒「0.2」						□ ・契約締結後14日以内に業務工程表が提出されないなど、速やかに業務着手がなされなかった。 □ ・業務実施方針及び業務工程表には、設計図書に示された事項が適切に反映されていなかった。
				実施体制	10	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「1.0」 〃=1⇒「0.6」、〃=2⇒「0.2」						□ ・契約図書に基づき、管理技術者届け及び業務計画書が提出されなかった。 □ ・業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、業務が履行されなかった。
				打合せ内容の理解、記録	10	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「1.0」 〃=1⇒「0.6」、〃=2⇒「0.2」						□ ・打合せ記録簿が提出されなかった。 □ ・打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映してなかった。
				内部関係者への情報伝達	10	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「1.0」 〃=1⇒「0.6」、〃=2⇒「0.2」						□ ・受注者内の意志疎通が不十分であり、指示や打ち合わせ事項が資料等に反映されなかった。 □ ・受注者内の意志疎通が不十分であり、同様な指示を何度も実施した。
				工程管理	40	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「1.0」 〃=1⇒「0.6」、〃=2⇒「0.2」						□ ・工程に遅れが目立ち、履行期限内に納品されない恐れがあり、繰り返し指示を行った。（発注者側に遅延要因がある場合を除く） □ ・工程が業務計画書どおりでなく、関連する他の業務・事業等に影響を及ぼした。（発注者側に遅延要因がある場合を除く）
				小　計	100	①						
		品質管理能力	イ.『概略設計、予備設計』の場合	ミス防止の実施【加点評価】	100	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」 －					－	□ ・第３者（管理技術者、担当者、照査技術者以外）のチェック等自主的な品質管理の努力がなされていた。 □ ・品質管理のためのシステム(ex. IS09001)が構築されている部署で業務を行った。
				小　計	100	①					－	
			ロ.『詳細設計』の場合	ミス防止の実施	100	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・業務計画書等に、照査体制が記載されていた。 □ ・業務計画書等に照査担当者が配置されていた。 □ ・チェックリスト等の品質管理の記録により、照査が実施されたことを確認できた。 □ ・品質管理のためのシステム(ex. IS09001)が構築されている部署で業務を行った。
				小　計	100	①						

評価項目			評価の視点	配点	得点率 優 1.0 / 標準 0.8 / 0.6 / 0.4 / 劣 0.2	得点	評価細目
プロセス評価	管理技術力	迅速性、弾力性、調整能力 ［加点評価］	当初計画の変更	40	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」		□ ・業務遂行中に生じた、当初工程計画からの変更要請に迅速に対応した。 □ ・その結果生じた検討内容が特に優れていた。
			関連事業者間の調整	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」		□ ・発注者からの指示に基づき、関連事業者間の調整のための資料が円滑に作成された。 □ ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
			地元住民との合意形成	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」		□ ・発注者からの指示に基づき、地元住民との合意形成のための資料が円滑に作成された。 □ ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
			小　計	100	①		
	コミュニケーション力	説明力、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ力、協調性	理解しやすい説明･ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ（資料）	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□ ・日時･場所･参加者･目次･頁等が明記された資料となっていた。 □ ・図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 □ ・資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 □ ・資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができた。
			理解しやすい説明･ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ（対応）	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□ ・打合せ開始時に、打合せの趣旨･目的が説明された。 □ ・質問に対し的確な回答がなされた、又は即答できない場合には回答期限が提示された。 □ ・一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 □ ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。
			説明を補う努力	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 □ ・説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。 □ ・相手の理解度に応じ、説明のポイント･速さ等が工夫されていた。 □ ・説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。
			円滑な業務遂行への努力【加点評価】	20	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」		□ ・密に業務の進捗状況等が発注者に報告されていた。 □ ・業務遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされた。
			小　計	100	①		

評価項目			評価の視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
プロセス評価	取組姿勢	責任感、積極性、倫理観	責任感、積極性	100	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□ ・管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。 □ ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。 □ ・業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項･決定事項等が再確認されていた。 □ ・業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確認が迅速になされた。
			小　計	100	①		
結果評価	成果品の品質		目的の達成度	40	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□ ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 □ ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注)
			的確なとりまとめ	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□ ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 □ ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □ ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 □ ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」		□ ・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 □ ・誤字･脱字、表記･計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。 □ ・修正が必要なミスは無かった。 □ ・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
			小　計	100	①		

注）考査基準（一般）「採点上の補足」を参照のこと。

※該当する評価項目の『□』にチェック入れる。

別表２　採点表（土木設計業務）　②〔主任担当員用〕

評価項目			評価の視点	配点	得点率 優　標準　劣 1.0　0.8　0.6　0.4　0.2	得点	評価細目
プロセス評価	専門技術力	業務執行技術力	業務執行技術力	100	右記評価細目の該当項目を総合的に判断して「0.2」、「0.4」、「0.6」（基準点）、「0.8」、「1.0」を付与する。		□・当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるものであった。 □・当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるものであった。 □・当該業務に対する検討項目及び検討手法について、特に評価できるものであった。 □・当該業務の打合せ資料の内容について、特に評価できるものであった。 □・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価できるものであった。 □・その他（理由：　　）
			小　計	100	③		
	取組姿勢	責任感、積極性、倫理観	責任感、積極性、倫理観	100	右記評価細目の該当項目を総合的に判断して「0.2」、「0.4」、「0.6」（基準点）、「0.8」、「1.0」を付与する。		□・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 □・業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対して評価できるものであった。 □・地域への貢献等に関して、特に評価のできるものであった。 □・業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体として体制の拡充を図る等により、業務を完成させた。 □・その他（理由：　　）
			小　計	100	③		

※該当する評価項目の『□』にチェック入れる。

別表２　採点表（土木設計業務）　③〔検査員用〕

評価項目			評価の視点	配点	得点率 優 1.0	標準 0.8	0.6	0.4	劣 0.2	得点	評価細目
プロセス評価	専門技術力	業務執行技術力	検討項目、検討手法	50	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □ ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 □ ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □ ・提案された検討手法は、従来技術を応用･統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注）
			十分な技術力	50	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・業務に必要な技術基準、マニュアル、業務仕様書等が十分に理解されていた。 □ ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 □ ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。 □ ・新たな、あるいは高度な調査･解析･設計等の手法･技術に十分対応できる能力を有していた。注）
			小　計	100	⑤						
	コミュニケーション力	説明力、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ力、協調性	説明力、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ力、協調性	100	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 □ ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度に応じ、説明のポイント･速さ等が工夫されていた。 □ ・説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。
			小　計	100	⑤						
結果評価	成果品の品質		目的の達成度	40	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 □ ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注）
			的確なとりまとめ	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 □ ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □ ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 □ ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	評価細目ﾁｪｯｸ数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」						□ ・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 □ ・誤字･脱字、表記･計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。 □ ・修正が必要なミスは無かった。 □ ・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
			小　計	100	⑤						

注）考査基準（一般）「採点上の補足」を参照のこと。